

横 綱 昇 進

口上はシンプルに

応にも新鮮な思いで接した。 で同時昇進を祝う世間の反 柏戸は自覚していた。一方 と抱き合わせであることを て文句なしの綱昇進したの 張ります」とまとめた。 受けします。これからも頑 歳年下の大鵬は「喜んでお を述べた。当時23歳を目前 るため頑張ります」と口上 恥ずかしくない成績を挙げ 年9月27日、横綱昇進の使 にしていた。 同時昇進で2 者を迎えた際「横綱として 成績はともあれ、 大鵬が2場所連続優勝し 柏戸は昭和36(1961)

と)実力は互角だ」という (中)

るように「体験入門」とし 両親に「親孝行できた」と 門を勧誘してきた伊勢ノ海 ため櫛引から上京してきた 声に勇気づけられた。 て父・元雄とともに上京し 在住の田中誠一に根負けす 部屋の世話人で鶴岡市大山 たかった。角界入り(29年 いう喜びは何物にも代えが 秋)から約7年。熱心に入 加えて一連の昇進行事の

品格力量拔群

柏 P

剛

土俵入りは雲龍型

兄弟子たちとの稽古で分が 良かったことで「オレ、相 手加減してくれたにせよ

> 残ることにした。母・かつ それらも自らの出世で丸く 撲やってみる」と父だけを 収まった。「晴れ晴れとし 繰り返したことも聞いた。 公務員にさせようとしてい ゑは自分を安定した職業の 山形に帰し、自分は東京に たので両親が夫婦ゲンカを り上がりの時に右手だけを さあ次も頑張らなければ との思いを強くした。 里に学ぶことになった。せ 風親方(元横綱双葉山)と なった。一門の総帥・時津 た気持ちがこみ上げては、 同じもので、先輩横綱・鏡 横綱土俵入りは雲龍型に

伸ばす形のも 優勝4回とそ たが、白鵬が の。両手を広 命とされてき 型。これを選 ばすのがもう げるように伸 んだ横綱は短 一方の不知火

するような実 の評判を払拭 績を挙げ、ま

昭和二十六年十月二日

日本相撲協會

示されている 地域)内に展 横綱推挙状」 (鶴岡市櫛引

た日馬富士は優勝9回。 綱打ちに感激新た

兄弟」の父であり、師匠に と長兄・鶴嶺山の「井筒3 なった人だ。露払いは時津 依頼した。後に逆鉾・寺尾 風部屋の青ノ里に頼んだ。 屋のもろざし名人鶴ケ嶺に 使者を迎え入れて後、翌 太刀持ちは同門・井筒部

谷区)で行われる横綱推挙 式に備えて今度は麻もみ、 月2日に明治神宮(都内渋 綱打ちが行われた。 白い綱を形作るため、麻

柏戸記念館

上がる。 編みのようにして綱が出来 ラシの木綿布で覆い、三つ ので、これを銅線に巻いて いく。3組作って、白いサ 糸をならし、撚っていくも

る行事だった。 ミー、イチ・ニー・サン」 自分たちの一門に横綱が誕 純白の綱をつくっていく。 紅白のねじりはちまきをし た綱打ちは若い力士たちが の掛け声に合わせ、新たな て、太鼓の音と「ヒーフー 生したという喜びに包まれ 時津風一門総出で行われ

技」。ただ出だしを「けん意専心」、横綱時は「堅忍不

難解四字熟語の口上

また兄・若乃花は大関時一 からもらった言葉という。 ド、難解「四字熟語」利用 撓不屈」、横綱時は「不惜身 った。貴乃花は大関時に「不 口上における一時のトレン は若貴兄弟が始めたものだ ○…横綱・大関昇進時の 」。これは俳優・緒形拳

門の佐渡ケ嶽部屋の大関昇

ニングがあった。貴ノ浪は しん」と言い間違えるハプ

大関昇進時「勇往邁進」。同

進では琴光喜が「力戦奮闘」。

付け人は7人以上

に1人ずつ。左右に2人ず と7人は必要だ。前と後ろ ていいです」と師匠に答え らず、と、親方が悔し涙を かなえず、力士数が60人以 総数15人前後の小部屋だけ を管理する者が1人。力士 音だったが、『親の心子知 たことがあった。ある面本 別に横綱にならなくったっ そうした光景を見ながら 惑したこともあった。 流したことを知らされ、 衆を借りることになった。 上だった時津風部屋の若い だった。大関時代「オレは な」の実感が湧いてくるの つで、横綱の腰に合うよう に伊勢ノ海部屋だけではま に締めていく。さらに太刀 「本当に横綱になったんだ 付け人は綱締めを考える

(富樫嘉美) ||敬称略||

次回は2月2日付に掲載

代は「至誠一貫」を用いた。

努力を続ける。という意味 琴奨菊は、目標に向かって

の「万里一空」。最新の正